

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270104351		
法人名	有限会社 らくてん		
事業所名	グループホームかわびら		
所在地	〒852-8143 長崎県長崎市川平町1199番地 (電話) 095-849-3006		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】 (20年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算 14人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨モルタル木造り		
	2階建ての 1～2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,310 円	その他の経費(月額)	7,620円+実費 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (70,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 696 円		

### (4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性 4 名	女性 11 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	— 名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	河野内科医院、すぎやま内科消化器科、井上病院、杉森歯科クリニック、 百合野病院、田中外科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは浦上駅より車で15分ほどの住宅街の中にあり、近くには各科病院、美容室、店舗などがあります。駐車場も5台分ほど確保してあり、ご家族も気軽に来訪できる環境です。2階建てで2ユニットを運営されておりますが、保育園児などの来訪等のイベントの際はユニット間の交流も兼ねて一緒に活動されています。シフト制の勤務体制ではあるものの、ご利用者を担当制にされており、思いや意向をより把握できるよう、努められています。ケアプランはご家族等にもわかりやすく伝えるため、具体的に詳しく記載されています。ご利用者はリビングや食堂、自室などお好みの場所で思いおもいに過ごされており、理念に掲げられているように穏やかな時間を過ごされています。スタッフもチームワークよく管理者、介護支援専門員を中心に現状に満足せず、よりよい支援の提供に積極的に取り組まれています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善に向けた計画的な取り組みが行われています。 前回の外部評価結果に基づき、改善シートを作成して優先順位にそって改善活動および評価見直しが行われています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員で評価に取り組み、課題の共有に努められています。 自己評価を日頃の業務を見直す良い機会と捉え、スタッフ全員で実施されています。質の向上を目指し自己評価の意義をきちんと理解し取り組まれています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開催頻度の充実が求められます。 運営推進会議において積極的な意見交換が行われていることは議事録で確認できますが、その開催頻度は3ヶ月に1度といった状況です。今後は開催頻度について見直されることを期待します。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の意見を聴取する姿勢がうかがえます。 意見箱の設置や面会時などにご家族と情報交換される中で、ご意見を聴取されるよう心掛けられています。聴き取った情報は必要に応じてスタッフで共有され支援の参考とされています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	積極的な活動が見受けられ、今後の取り組みにも期待します。 自治会にも加入され日頃からの情報交換や行事への参加も積極的に行われています。また近くの保育園児とは毎月来訪を受け交流されており、ご利用者の楽しみのひとつともなっているようです。

(別紙2-2)

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心穏やかな暮らしいつまでも」の理念にはまずはスタッフが心穏やかに過ごすことでご利用者の方々にも穏やかな気持ちが伝わり、心地よく過ごされればとの思いを込められています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や食堂の掲示に留まらず、毎朝のミーティングや運営推進会議の折にも参加者一同で唱和され、浸透を図られています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入されており、地域の消防訓練や運動会への参加、また資源物回収にも協力されています。さらには毎月近くの保育園児たちが来所され遊戯や歌での交流を楽しまれています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、その意義の理解の浸透と課題の共有化を目的に、スタッフ全員で取り組まれており、前回の評価結果についても改善計画シートを作成され、改善に向けた活動を展開されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録から積極的な意見交換が行われていることが読み取れますが、平均3ヶ月に1回の開催で、目標頻度には至っていない状況です。	○	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回の開催が求められています。内容の工夫といった前向きな意向をお持ちのようですので、併せて開催頻度の見直しも検討されてはいかがでしょうか。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定の切換え時のみならず、医療費や献立に関する事項など、その他必要に応じて相談をされその都度に助言や指導を受けられています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の状況は、毎月の「かわびら通信」にて報告されているとともに、ご家族の来訪時や電話、手紙などを活用し報告されています。	○	預かり金については、金額確認のための領収証の提出が望まれます。また、報告の後は、確認サインにて双方で確認できる仕組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時にご利用者やホームの近況を報告中のご意見を聞かれています。ご要望やご意見があった場合には全職員で内容を共有し対応されている事例も確認できます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者とスタッフは日常はもとより、イベントや旅行時にも交流を深められ就業環境についても相談しやすい関係が作られています。スタッフとご利用者もユニットを越えて馴染みの関係となられています。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフそれぞれが「介護の取り組みシート」に一年の目標を記入し、意欲をもって支援に取り組まれています。その内容や管理者が直接聴き取った思い、希望を参考に研修を計画されています。また、支援の充実を目指し、内・外部研修にも積極的に取り組まれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの相互訪問により、交流をされています。また、定期的に参加されている市内グループホーム連絡協議会で得た情報は全スタッフで共有されています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人やご家族の状況に応じて必ず面会をされ、見学および体験入居の受け入れも行われています。その際の記録も残され、入居直後のケアに役立てられています。また入居直後はご利用者の状況に合わせてご家族との連絡相談を密に行い、その情報をケアに活用されています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	残存能力を発揮される機会をさりげなく、できるだけ多くもたれるような環境づくりに取り組まれています。またご利用者の笑顔や気遣い、感謝の言葉などを励みに日常的な関わりを大切にされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話を大切にし、表情や行動、センサー方式「ケアプランの基礎」に記入された情報を基に、思いの把握に努められています。また難聴の方には筆談を行うなどお一人お一人に合わせた方法で丁寧に対応されています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族等からの情報及びスタッフの気づきなどを基に、ケアプラン会議により意見を集約され介護計画が策定されています。作成された計画は、スタッフに回覧して周知され、ご家族に説明同意を得て、確定されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末日にモニタリングを行い、ケアプランの変更の必要の有無を確認するほか、状態に応じてご利用者、ご家族、かかりつけ医等と話し合い、現状に即した計画への見直しが行われています。計画の変更事項については申し送りや会議の中で共有されています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の割烹仕出し店のマイクロバスやワゴン車を利用し、花見や果物狩りなどへのドライブ、外食の機会を多くつくられています。また、馴染みの店への買い物など、車椅子の方を含めた支援が行われています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族から依頼がある場合は、通院介助を行われています。受診の結果はその都度にご家族に伝え、ご家族が受診へ同行された場合にもすぐに情報交換されるなど、ご利用者の健康状態の共有化が図られています。かかりつけ医とも24時間連携できる関係となっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する方針はご家族にも文書で示されており、本人およびご家族からの希望も確認され、さらにかかりつけ医との意見交換の元、方針の共有がなされています。また実際に看取りの対応をされた実績も3件聴取できます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的は契約書にあり、居室の入口にはのれんで目隠しを施したり、職員間での申し送りの際には名札を利用し名前を声に出さないなどの工夫をされ、プライバシーへの配慮は感じられます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職業歴や生活歴などもヒントにしながら、会話だけでなく表情や行動からも思いの把握に努め、ご利用者の意向に沿った支援を心掛けられています。食事も急かすことなく、ご利用者のペースで食されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、ご利用者の希望も聴き取られながら作成されています。時に管理者が家庭菜園で作られた野菜やたけのこなど旬の材料を提供され、ご利用者が楽しみにされている会話が聞かれます。食事の準備や下膳にはご利用者も参加されている姿があります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日が設定されていますが、体調や希望に応じた対応も行われています。また、しょうぶ湯やゆず湯など季節に応じた楽しみの機会も作られています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職業歴や生活歴を基に、食事の下ごしらえや物の修理、生け花、歌の指導などの役割をもたれる機会をつくるように心掛けられています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の状態や気候等に配慮しながら、散歩などの支援が行われています。事業所のまわりの川沿いがちょうどよいお散歩コースとなっており、鴨や鯉を眺めながら楽しまれています。車椅子をご利用の方も極力外出の機会をつくるよう工夫されています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は出入りの確認がしやすい造りになっており、日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、見守りにより対応されています。徘徊の傾向などについても把握しスタッフ間で協力しながら対応されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害に備え事業所自体を高い位置で建設されており、スプリンクラーの設備もあります。また、避難訓練の実施や非常時持ち出しグッズも確認できます。代表者が積極的に予報を見ながら早めの指示を出されているということです。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好調査を行い、ご利用者に合った食事提供を心がけられています。また日頃における食事・水分の摂取状況もチェック表を用いて把握されています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂への加湿器設置や、図書スペースが設けられていたり、居心地よく過ごせる工夫が見受けられます。壁面には来園した園児たちの写真や季節に沿った歌の歌詞が貼られており、楽しく過ごされるよう取り組まれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは特に制限なく、テレビや鏡台、仏壇、お位牌などの持ち込みが確認できます。各居室は自分の空間として思い思いに過ごしやすいように飾られています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。